



福井敬一常設展

VOL.31

須坂駅前 シルキービル 2階 アートギャラリー

(午前9時～午後5時) 入場無料

平成25年7月26日(金)～11月24日(日)

# 港

— 心にやきついた風景 —

主催/問い合わせ先：須坂市市民共創部 生涯学習スポーツ課

須坂市大字須坂 1528 番地の 1 TEL：026-248-9027(課専用) FAX：026-248-8825

E-MAIL：shogaigakushusports@city.suzaka.nagano.jp

「ヨーロッパ旅行で心にやきついた風景を思い浮かべて見た。ギリシャのピレウス港、ペルージヤの丘の上の街やアッシジである。」福井敬一は五十代後半にそう記しました。福井は二十歳で画家を志し、夢に見た洋行を果たしたのは一九六一（昭和三六）年、五十歳の時でした。その後はエーゲ海を巡る旅など、幾度もヨーロッパに赴き、彼の地をモチーフに多くの作品を生み出しました。

今回は、「港」をテーマに作品を紹介します。「ピレウス港」は描かれる毎に異なる海の色や、建物の白さで見ると魅了してきました。さざなみに耳を澄ますように港町の風景を眺めてみてください。刻々と変わる港町独特の風景に自然と心引き込まれていくのではないのでしょうか。

## 港 —心に焼きついた風景—



「ピレウス港」(1968年)

### 福井敬一と常設展について

1911(明治44)年台湾生まれ。帝国美術学校卒業後、油彩画を中心に制作活動を行い、国内美術界をリードしてきました。1953(昭和28)年「上高井美術同好会」の講師となり、以来37年間にわたり毎年須坂市を訪れ、地域の美術指導にあたりました。須坂市文化会館メセナホール「破風高原」の下絵を制作したことで知られています。2003(平成15)年逝去。その前年、自身の希望により600余点の作品を須坂市に寄贈しました。これらの作品を市民の芸術文化振興に活用するため、テーマを設けて展示替えを行っています。

表：「岬」(1992年)